

1. A を n 次実正方行列とし, $V = \{Ax \in \mathbb{R}^n \mid x \in \mathbb{R}^n\}$, $W = \{x \in \mathbb{R}^n \mid Ax = 0\}$ とおく.

(1) V は \mathbb{R}^n の部分空間であることを示せ.

(2) $n = 4$ で $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 2 & 0 \\ 3 & 5 & 4 & 4 \\ 2 & 3 & 2 & 4 \\ 4 & 7 & 6 & 4 \end{pmatrix}$ とする. V と W に

ついて, 一組の基底と次元を求めよ.

解. (1) $A0 = 0$ より, $0 \in V$. $Ax, Ay \in V$ とすると $Ax + Ay = A(x + y) \in V$. $k \in \mathbb{R}, x \in V$ とすると $kAx = A(kx) \in V$. 以上より V は部分空間である.

(2) A を掃き出し法で基本変形すると

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & -2 & 8 \\ 0 & 1 & 2 & -4 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \text{となる.}$$

したがって $\dim V = \text{rank } A = 2$ で

基底として $\begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 2 \\ 4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 5 \\ 3 \\ 7 \end{pmatrix}$ がとれる.

次に $Ax = 0$ の解は $x = t \begin{pmatrix} 2 \\ -2 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} + s \begin{pmatrix} -8 \\ 4 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ となるの

で $\dim W = 2$ で, 基底として $\begin{pmatrix} 2 \\ -2 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -8 \\ 4 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ がとれ

る. □

2. 空間 \mathbb{R}^3 において, 原点を通り, 方向ベクトル $v \neq 0$ の直線 l を考える. l に関する対称変換を f とする.

(1) $f(x) = \frac{2}{\|v\|^2}(x, v)v - x$ ($x \in \mathbb{R}^3$) であることを示せ. ここで (x, v) は x と v の内積を表す.

(2) $l: \frac{x}{2} = y = \frac{z}{2}$ のとき, \mathbb{R}^3 の標準基底に関する f の表現行列 A を求めよ.

解. (1) $u = \frac{v}{\|v\|}$ とおく. $x \in \mathbb{R}^3$ に対して, x を l に正射影したベクトルは $(x, u)u$ である. このとき $x + f(x) = 2(x, u)u$ となるので

$$f(x) = 2(x, u)u - x = \frac{2}{\|v\|^2}(x, v)v - x.$$

(2) $v = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}$ である. $x = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^3$ とおくと (1) より

$$f(x) = \frac{1}{9} \begin{pmatrix} -1 & 4 & 8 \\ 4 & -7 & 4 \\ 8 & 4 & -1 \end{pmatrix} x.$$

となる. 故に $A = \frac{1}{9} \begin{pmatrix} -1 & 4 & 8 \\ 4 & -7 & 4 \\ 8 & 4 & -1 \end{pmatrix}$ □

3. A, B は n 次正方行列とする.

(1) A, B が共役であるとき, 固有多項式について $\phi_A(t) = \phi_B(t)$ であることを示せ.

(2) A または B が正則のとき, 固有多項式について $\phi_{AB}(t) = \phi_{BA}(t)$ であることを示せ.

解. (1) $B = P^{-1}AP$ とする. $\phi_B(t) = |tE - B| = |tE - P^{-1}AP| = |P^{-1}(tE - A)P| = |P^{-1}||tE - A||P| = |tE - A| = \phi_A(t)$.

(2) A が正則とすると, $A^{-1}(AB)A = BA$ である. B が正則とすると, $B^{-1}(BA)B = AB$ である. いずれにしても AB と BA は共役である. したがって $\phi_{AB}(t) = \phi_{BA}(t)$.

(補足. 実は A, B が正則でないときも $\phi_{AB}(t) = \phi_{BA}(t)$ が成り立つ.) □

4. 実対称行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 2 & 0 \\ 2 & 3 & 2 \\ 0 & 2 & 4 \end{pmatrix}$ について

(1) 固有値を求めよ.

(2) A を対角化する直交行列 P を一つ求め, A を対角化せよ.

(3) A^n ($n \geq 1$) の (1,1) 成分を求めよ.

解. (1) $\phi_A(t) = t(t-3)(t-6)$ より, $\lambda = 0, 3, 6$.

(2) 固有ベクトルは $\lambda = 0$ のとき $v_1 = \begin{pmatrix} 2 \\ -2 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\lambda = 3$

のとき $v_2 = \begin{pmatrix} -2 \\ -1 \\ 2 \end{pmatrix}$, $\lambda = 6$ のとき $v_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 2 \end{pmatrix}$ が

とれる. これらを正規直交化すると $u_1 = \frac{1}{3} \begin{pmatrix} 2 \\ -2 \\ 1 \end{pmatrix}$,

$u_2 = \frac{1}{3} \begin{pmatrix} -2 \\ -1 \\ 2 \end{pmatrix}$, $u_3 = \frac{1}{3} \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 2 \end{pmatrix}$ となる.

$P = \frac{1}{3} \begin{pmatrix} 2 & -2 & 1 \\ -2 & -1 & 2 \\ 1 & 2 & 2 \end{pmatrix}$ とおくと

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 3 & 0 \\ 0 & 0 & 6 \end{pmatrix}.$$

(3) 対角化の式より $A^n = P^{-1} \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 3^n & 0 \\ 0 & 0 & 6^n \end{pmatrix} P$ とな

る. $P^{-1} = {}^tP = \frac{1}{3} \begin{pmatrix} 2 & -2 & 1 \\ -2 & -1 & 2 \\ 1 & 2 & 2 \end{pmatrix}$ であるから (1,1)

成分は

$$A_1^1 = \frac{1}{9}(4 \cdot 3^n + 6^n) (= 4(3^{n-2} + 6^{n-2})).$$

□